

特別支援教育	単位数 時間数	2単位 22.5時間
[教員]：川島民子		
【 授業概要 】 特別な教育的ニーズを有する子どもに対して、適切な支援が求められています。本科目では、特別支援教育の意義、対象となる障害に関する基礎的な知識、理解、教育の現状について学びます。		
【 到達目標 】 1. 【知識・理解】 特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身につけることができる。 2. 【思考・判断・表現】 支援者としての考えと役割を理解し、自分なりの保育者観を持って、問題や課題に向き合い、判断、表現することができる。 3. 【技能】 幼児児童生徒一人ひとりの考え方、学び方などの多様性を理解し、支援方法を具体的に示すことができる。 4. 【関心・意欲・態度】 連携の視点や方法を知り、様々なケースに対応できる柔軟さとコミュニケーション能力を身につけることができる。		
【 成績評価と割合 】 方法：授業毎の振り返り・レポート・筆記試験・自己評価 項目と割合：受講態度（10％）レポート（20％）自己評価（10％）筆記試験（60％）の合計（100％）で評価します。 その他：3分1以上欠席した学生には定期テスト受験資格がありません。		
【 内容 】		
第1週： 特別支援教育の現状	1.5時間	実務家
第2週： 視覚障害児の理解	1.5時間	実務家
第3週： 聴覚障害児・言語障害児の理解	1.5時間	実務家
第4週： 知的障害児の理解	1.5時間	実務家
第5週： 肢体不自由児の理解	1.5時間	実務家
第6週： 病弱児の理解病弱の理解	1.5時間	実務家
第7週： 重複障害児の理解	1.5時間	実務家
第8週： LD児の理解	1.5時間	実務家
第9週： ADHD児の理解	1.5時間	実務家
第10週： 自閉スペクトラム症児の理解	1.5時間	実務家
第11週： 情緒障害児の理解	1.5時間	実務家
第12週： 特別支援学校の教育の実際	1.5時間	実務家
第13週： 特別支援学級の教育の実際	1.5時間	実務家
第14週： 通級による指導の実際	1.5時間	実務家
第15週： 小学校・中学校等に於ける特別支援教育の実際	1.5時間	実務家
		22.5時間

特別支援教育研究	単位数 時間数	2単位 22.5時間
【教員】： 川島民子		
【授業概要】 特別支援教育研究は、特別支援教育や実習での学びを踏まえ、一人ひとりの子どもの教育的ニーズを確かめ、そのニーズに沿う保育・教育を展開していくための考え方や手立てについて学びます。		
【到達目標】 1. 【知識・理解】特別支援教育の理念と概念を理解し、高度な知識と技能を身に付けることができる。 2. 【思考・判断・表現】一人ひとりの教育的ニーズを把握し、そのニーズに合った保育・教育について考える。 3. 【技能】子どもの発達や障害特性のアセスメントについて学び、保育・教育に活用することができる。 4. 【関心・意欲・態度】子どもの発達や教育的ニーズに対する支援についてまとめたり、発表したりすることができる。		
【成績評価と割合】 ・授業の参加意欲・受講態度 (10 %) ・自己評価 (10 %) ・レポート (20 %) ・筆記試験 (60 %)		
【内容】		
第1週： 講義のオリエンテーション	1.5時間	実務家
第2週： 「特別支援教育」について考える。	1.5時間	実務家
第3週： 乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて(1)	1.5時間	実務家
第4週： 乳幼児期から児童期の発達とアセスメントについて(2)	1.5時間	実務家
第5週： 自閉症スペクトラムへ児の支援について学ぶ	1.5時間	実務家
第6週： 学習障害(LD)児への支援について学ぶ	1.5時間	実務家
第7週： ADHD児への支援について学ぶ	1.5時間	実務家
第8週： 協調運動障害児への支援について学ぶ	1.5時間	実務家
第9週： その他特別な配慮を要する子どもへの理解と支援について学ぶ	1.5時間	実務家
第10週： ケーススタディについて学ぶ	1.5時間	実務家
第11週： 保育所・幼稚園・小中学校などでの支援体制について学ぶ。	1.5時間	実務家
第12週： 保育環境や子ども同士の関わりについて学ぶ。	1.5時間	実務家
第13週： 家庭・保護者の理解と支援について学ぶ。	1.5時間	実務家
第14週： 関係機関との連携について学ぶ。	1.5時間	実務家
第15週： まとめ 特別支援教育再考	1.5時間	実務家
		22.5時間

療育実務研修	単位数 時間数	4単位 120時間
【教員】： 垣添 忠厚 （実務家）		
【 授業概要 】 特別な教育的ニーズを有する園児が通園する療育現場（言葉の教室等含む）や保育施設等において、療育に関する視点による実務を行うことによって、実践的研究・社会人基礎力・保育構想力を備えた療育の分野における実践力の育成を目的とする。 この力を育成するために、（１）個人研究のテーマを明確にもつこと（２）個別の支援計画の作成と振り返り（３）事例の集積と作成（４）多様の視点の育成を明確化・意識化して研修に臨む。		
【 到達目標 】 1. 【知識・理解】療育の目的や役割を理解し、療育現場での課題に気づき分析できる。 2. 【思考・判断・表現】対象児の適切な実態把握を行い、療育に関する目標及び課題を設定し、支援計画を作成することができる。 3. 【技能】支援計画に基づく対象児の教育的ニーズの理解に応じた援助や環境構成ができる。 4. 【関心・意欲・態度】社会に貢献する使命感と責任感をもって、積極的に行動する。		
【 成績評価と割合 】 ・研修現場の評価 20％ ・個人課題（研究）の追及 20％ ・個別の指導計画の作成と振り返り 20％ ・事例の集積と作成 20％ ・多様の視点による考察力 20％		
【 内容 】		
第1週： 事前指導/オリエンテーション/療育の役割/療育指針	6時間	施設長、指導員等
第2週： 実務家による療育分野の実際（１） 園児観察、環境整備	6時間	施設長、指導員等
第3週： 実務家による療育分野の実際（２） 園児観察、環境整備	6時間	施設長、指導員等
第4週： 障害特性の理解/発達が気になる子への対応/個別の支援計画	6時間	施設長、指導員等
第5週： 発達が気になる子のアセスメント 支援計画の作成（１）	6時間	施設長、指導員等
第6週： 発達が気になる子のアセスメント 支援計画の作成（２）	6時間	施設長、指導員等
第7週： 実務家の指導による療育に関する支援方法の理論	6時間	施設長、指導員等
第8週： 発達が気になる子の療育課題の支援方法の実際（１）	6時間	施設長、指導員等
第9週： 発達が気になる子の療育課題の支援方法の実際（２）	6時間	施設長、指導員等
第10週： 発達が気になる子の療育課題の支援方法の実際（３）	6時間	施設長、指導員等
第11週： 発達が気になる子の療育課題の支援方法の実際（４）	6時間	施設長、指導員等
第12週： ユニバーサルデザインに基づく教材教具の工夫（１）	6時間	施設長、指導員等
第13週： ユニバーサルデザインに基づく教材教具の工夫（２）	6時間	施設長、指導員等
第14週： 複数体制による療育課題のケース検討（１）	6時間	施設長、指導員等
第15週： 複数体制による療育課題のケース検討（２）	6時間	施設長、指導員等
第16週： 複数体制による療育課題のケース検討（３）	6時間	施設長、指導員等
第17週： 関係機関及び家庭との連携に関する課題の把握	6時間	施設長、指導員等
第18週： 個別の療育課題に関する家庭との連携（１）	6時間	施設長、指導員等
第19週： 個別の療育課題に関する家庭との連携（２）	6時間	施設長、指導員等
第20週： 事後指導/振り返りレポート/研修日誌の提出	6時間	施設長、指導員等

120時間